

KTK ひゅうまん 京都

No 549 2022年8月号

編集/京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内
編集発行責任者/池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

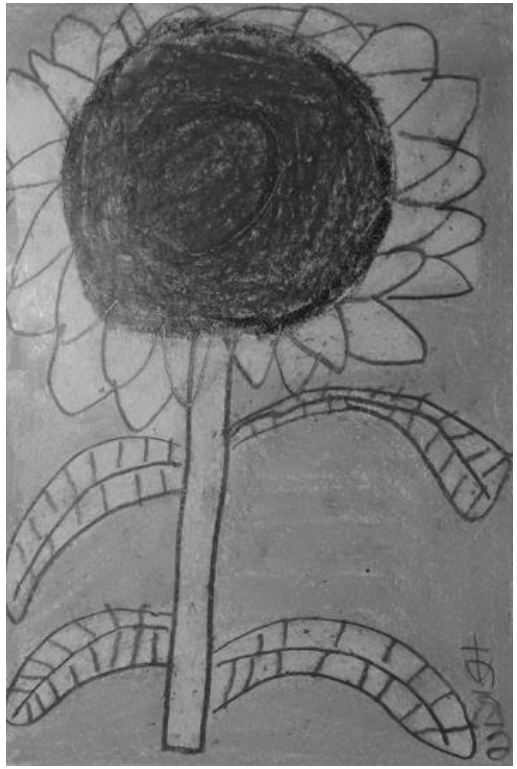
- P 1 左大文字 つどめ
- P 2 常任委員会から 池添 素
- P 3 入院の記 松本 美津男
- P 4 血の染みついたバトン 中村 暁
- P 5 電動車いす「まんまる号」ドライバー日記 山本耕平
- P 6 ジョニーの炸裂日記 ライスチョウジョナ
- P 7 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P 8 2+2=詩 富士一文
- P 9 障害のある人の権利を守る北障連から 濱中 博
- P 10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P 11 知っ得情報 松本 美津男
- P 12 気楽にお話ししましょう会報告 沖田 友子

左大文字

コミュニケーションペーパー

講義完了で前期終了、でも教員の難事はここから始まる採点業務。私学では受講生が300人を超える講義など当たり前。大学に移った頃は600人越えの講義担当者がそこらにいて面食らった▲今期も大講義の教養科目の担当。コロナ禍では教場に集合しての定期試験もレポート試験もなくただ出席状況その他による「日常点評価」というのが決まりだ。毎回のコミュニケーションペーパー(感想文)で出欠状況を把握し、授業態度や理解度を覗く。質問も出てくる。授業冒頭でその質問に答えながら、また印象に残った幾人かの感想を紹介しながら講義する▲「ケアの社会学」を主題にしたためか、自分の家族の介護に関わっての声が毎回届いてきた。「ヤングケアラー」を扱った時には、出席者270人中30人余りの学生が自身の家族のことを書いてきた▲父が人工透析患者になった/姉が自閉症でよく面倒見ていた/親の介護をしている友人が2人もいる/昨日久しぶりに、(以前このシートに書いた)中学校の時に介護が理由でよく遅刻していた友達と話した。「何が一番つらかった?」「ケアについて話せる人や場所がなかったこと」▲自分事として理解を深めようとしている学生たちの声。ついつい以前のシートにも手が伸びる。辛いけど嬉しくもあるコミュニケーションペーパーだ。

つどめ



「ひまわり」
渡辺あふる

常任委員会から

〈やっぱり送り火〉

今年はコロナ3年目の夏。ちよっとしか点火しなかった昨年はやっぱり寂しかった。今年はやっとパーフェクトに五山の送り火がみられると期待満載でした。いやコロナ前までは、当たり前のようにお盆の最終行事である送り火は恒例行事。あの火に乗って魂が帰っていくと京都の人は信じているの、私もその一人です。点火はもうすぐかなと待っているその時、風と雨の大嵐、そして鋭い光を放つ雷が鳴り響く。「どうなったんだ」と部屋で息をひそめて待つしかない時間がすぎ、やがて点火の時間が迫ってきたとき、雨風雷の三拍子がピタリとなくなりました。一瞬の大嵐は送り火の前奏曲の様相でした。いつもと違ったのは、左大文字から火が

集まり、「久しぶりです」と支

もったことです。少し遅れて大文字も。私の場所からは二つしか見えませんが、無事に妙法も船形も鳥居も赤々と火がともったようです。一年かけて準備する地域の行事。たくさんの方々がいっぱい詰まっているから、雨が降っても灯がともる。

援学校卒業からしばらくぶりの方や、同じ施設に子どもが通っている家族など、子どもの年齢も10代から30代と幅広く、お話ができました。内容の詳細は報告が載っていますので、そちらをぜひお読みください。少しずつ輪を広げて、困ったことや悩んでいることが話しあえて、そして、全国の暮らしの場を考える会ともつながり、ネットワー

クが広がっていくことを願います。

〈政治の話〉

今年度の京障連の方針にも上げられた、障害のある子どもを育てている親たちの声を拾い、親の困りごとや将来の親子の暮らしの場などについて、意見交換する場取り組みが始まりました。「気楽にお話ししましょう会」第1回が7月20日に開催されました。京都市障害者スポーツセンターを借りました。参加者は知り合いに呼びかけ13名が

岸田新内閣が誕生しました。閣僚の顔が並んだ新聞の一面を見てびっくりしました。おっさんの顔ばかりが並んでいて、女性はほんの少し。今最も大きな問題となっているオカルト集団との付き合いについても、あとからあとから切っても切れない関係が浮かび上がる始末。どうなっているのだろうか

と首をかしげることばかりがのさばっている政治の世界。京都市政のおかしさも、あれだけ市財政がひっ迫しているからと保育の運営費を切り捨てておいて、今度は黒字ですと。どうして子どもにかかる財源を切り捨てるのか、門川市政の姿勢の本質はそこにあるようだ。子どもや高齢者や市民の生活を守るより、ホテル、ホテル、ホテルだらけの京都にして、京都の町の歴史や趣、風情をつぶすことが目的の様。

この国や地方行政の流れ、何とか止められないものか。知恵を寄せ合えば打開策が見つかるはずだと思いたい。私たちは障害児者の分野から、安心して暮らすことのできる地域にするために声を上げることから始めるしかない。様々な分野から大きな声を一緒に挙げる取り組み、考えたいものです。

池添素(京障連事務局長)

入院の記(2)

手術後、手術していない右足に弾性ストッキングをはかされました。

これがくせもので、強力に締め付けられる部分が重だるい状況が続き、骨折した部分より、この苦痛のために眠れませんでした。

看護師さんに弾性ストッキングを外してほしいと言ってもだめ。ドクターに頼んでもだめ。血栓防止のため、手術をすればみんな、はかされるそうです。ドクターに「足を締め付けるのになぜ血栓防止になるんですか」としつこく尋ねると「そういうもんなんです」と投げやりに言われ、益々納得がいきませんでした。

納得がいかなかったのは、手術をした方の左足には、はかされていなかった事です。このこ

とを言ったら、明るる日に伸縮する包帯をぐるぐる巻きにされました。幸い、こちらの方はほとんど苦痛はなし。今から考えると足が細すぎて使える弾性ストッキングが無かったのかもしれない。

三日後にはやっとこの締め付けから解放されましたが、手術していない方の右足はそれ以降、以前に経験したことのない足の甲周辺のしびれが、ずっと残ったままで、弾性ストッキングの後遺症だと思っています。

車イスでの単独行動が許された12月24日、ほんの少しチョロチョロ。入院病棟のデイルームに大きなクリスマスツリーが登場しました。コロナ感染防止ということで、ルーム内での会話禁止となっていました。クリスマスイブらしい雰囲気づくりはなんとなく心が和みました。

病棟の車イス対応トイレ二つ

の壁には「遠慮は無用 転ばぬ先のナースコール」と書いた紙が貼ってありました。

こういう心遣いのある言葉が掲げているトイレは初めてで嬉しくなりました。

ただ、二つのうち一つは、壁側の手摺が便座から離れすぎている問題があったので病院の意見箱に改善要望として書いて入れておきました。

四人部屋の病室で看護師さんとも良く話をしている同室の若者に入院した理由を尋ねてみました。そうしたら、彼は建築現場の足場の五階からうっかり命綱をつけ忘れて転落し腰骨を折って下半身麻痺になったと言う

のです。よくぞ死なずに済んだものですが、ちよつとした不注意が大きな代償を払うことになり、彼もしきりに反省していました。

シングルマザーの彼女がいるので、お互い経済的にも困っているようでした。彼はとりあえず四国の実家へ帰ると言っていたので、彼が先に退院するとき、実家近くで相談できるところをネットで調べてメモ書きして渡しておきました。

(訂正…先月号で左大腿骨骨折と書いていましたが正しくは左大腿骨頸部骨折です)

松本美津男(京障連代表委員)



血の染みついたバトン

中村 暁（医療ジャーナリスト）

⑳破綻とズレ落ち

一体いつ第6波が終わったのかよくわからないまま、新型コロナウイルス感染症は第7波に突入した。京都府では8月3日に6891人の新規陽性者数が報告され、自宅療養中の方は6万人を超えた。福祉施設入所者を入院させない「留め置き」は解消されず、国のデータによれば府内で266人（8月3日0時時点）が施設入所中である。

身の周りにも患者が増えた。「高熱が出ているがどの診療所もいっぱいで検査すら受けられない。どうしたらいいか」と電話してくる人もいる。ある福祉職は訪問先の高齢者の陽性が確認され、もちろん

訪問を止めるわけにはいかないため、同居する自身の母親としばらく別居を決意。これで母親は独居となるが、リスク回避のための判断である。コロナは高齢者やハイリスク者にとつて恐ろしい病気である。オミクロン株は重症化しにくいというが、若い世代に限った話。国の「新型コロナウイルス（オミクロン流行期）と季節性インフルエンザの重症化率等の比較」データによれば、60歳未満では重症化率が0.03%、致死率が0.01%と季節性インフルエンザと同じだが、60歳以上では重症化率が2.49%で季節性インフルエンザの0.79%を軽く超え、致死率も1.99%で季節性イン

フルエンザの0.55%を大きく上回る。 さて8月8日から、京都市保健所は新規患者への「最初の連絡」（ファーストタッチ）を64歳以下で重症化リスクの低い人について取りやめた。以降は、医療機関が療養期間等を説明したプリントを配布している。これを聞いて私はとうとう日本のコロナ対策が「破綻」したと思った。本来、保健所のファーストタッチは「公」の責任として、感染した市民の重症化リスクや暮らしぶりを保健師が専門的見地から把握し、「あなたの生命を自治体は守る」とのメッセージを伝えるものではないか。

それが出来なくなったら、保健所を中核とした感染症対策の体制の根っこは崩れろ。だが国は、「本来どうあるべきか」の視点などは忘却の彼方。4 「医療機関や保健所のひっ迫を回避する」ためとあって、対策の「緩和」ばかり次々打ち出している。悲劇なのは「コロナ対策専門家有志」たちまで8月2日、「破綻」した現状を追認するような提言を発表したことだ。そこに生命を守るために医療を保障する視点があるように、私には見えない。日本の公衆衛生体制では対応不能な規模で拡大するコロナを「現状追認の緩和」で乗り切ろうなんて科学ではない。第7波に至って日本のコロナ対策は破綻し、専門家たちは科学から「ズレ落ち」た。

i アドバイザリーボード（第90回 2020年7月13日）

だが国は、「本来どうあるべ

電動車いす「まんまるのり」 ドライバードライバー日記 ④

山本耕平

昨年（2021年10月）に、私の左脚が、歩行時に痙性麻痺から私の思いが通らなくなりまして。しかも、両眼の動眼神経が深刻な課題を持ち始めました。左脚は、歩行時につっぱり自身の意思に反し力が抜けま

が5メートルとなりました。また、両眼を思い通りに動かさずに生じる複視が著しくなりまして。これは、病気の再発もありましたが、コロナとも深く関係していません。コロナによって授業や会議がリモートになり、それまでは通勤し仕方なく使っていた身体を使わなくなりました。仕方がなく歩き、外出時に遠方をみたり、なんとか残存機能を自然

いる人生と向き合おうと決意していたのですが、徐々に、5分歩いては止まり休憩するという生活が続き、苦になってきました。しかも、握力の弱い（握力8）左手の杖を時々落とし、拾い上げる時に転ぶのが危険であることか

ら、電動車いすの活用を決意したのです。その決断の前に、私の生活がかなり制限されていることに気づいてきたのです。その不自由さ（制限）から少しでも解放されるために「自分のQOLを上げた」と主治医と相談し、電動車いすの活用を選択したのです。



その決意をし、町役場を訪れました。そこで、「今回、障害等級の変更があります。3級だったので、2級相当だと医師の診断書が出ています。2級が認められた時、車いすを活用したいと考えています」との思いを伝えたところ、「では、介護認定を申請してください。もちろん、それによって電動車いすが認められるとは限りません」との返答がありました。もちろん、それは分かっています。ただ、それは、その前に、今、相談来所した私の思いを聞きましたか」とつっこみをいれてしまいたくなる返答でした。

ジヨニーの炸裂日記

ライスチヨウジヨナ(イラストレーター)

夏です。夏生まれは夏が好きで、冬生まれは冬が好きというのとは本当なのだろうか。真偽はともかくとして、実際に私は夏生まれなのでやはり夏が一番好きである。

夏と言えばアイス、かき氷、冷やし中華、花火、虫とり、プール、海、夏祭り、熱中症、蚊の大群、夏休み最終日の宿題地獄などなど。私はどれにも当てはまらず、夏はなぜか毎日映画が観たくなる。とくに古い昔の映画のシリーズを一気見するという修行のようなことをするのが好きだ。去年の夏は「猿の惑星」シリーズを一気見したのだが、今年も「ゴジラ」シリーズを一気見している。

夏と言えばアイス、かき氷、冷やし中華、花火、虫とり、プール、海、夏祭り、熱中症、蚊の大群、夏休み最終日の宿題地獄などなど。私はどれにも当てはまらず、夏はなぜか毎日映画が観たくなる。とくに古い昔の映画のシリーズを一気見するという修行のようなことをするのが好きだ。去年の夏は「猿の惑星」シリーズを一気見したのだが、今年も「ゴジラ」シリーズを一気見している。

『ゴジラ』と言えば、その名前を聞いたことのない人はないだろう。太古から地球に生息

前を聞いたことのない人はないだろう。太古から地球に生息



いる。しかし、2作目以降はエンターテインメント性が増していき、そのテーマ性は徐々になりを潜めていってしまう。当初は大人も子供も楽しめる作品として制作されていたのだが、シリーズ第5作である『三大怪獣 地球最大の決戦』(1964) から子供向け路線へと徐々に舵を切り始め、第8作『怪獣島の決戦 ゴジラの息子』(1967) が公開された頃には当初のコンセプトなど見る影も無くなってしまった(『ゴジラの息子』自体私は嫌いではない)。しかし嘆くのはまだ早い。第11作『ゴジラ対ヘドラ』(19

71)では、当時社会問題となっていた公害問題をテーマにし、話題を呼んだ。作品冒頭からヘドロの映像がひたすら続き、テーマソングの『かえせ!太陽を』はインパクトある歌詞でなかなか強烈な印象を残す。反戦反核とまではいかないが、その時代性を反映させた意欲作なので、私のお気に入りのものである。

これを書いている時点で、約3週間かけたゴジラシリーズマラソン昭和編もちようど終了した。次は平成ゴジラシリーズが待っている。長い戦いである。シリーズものの一気見は、時代の移り変わりが見てとれるので楽しいし、勉強になる。そう言えば、去年の夏に観ていた「猿の惑星」シリーズもテーマの一つが反核であった。夏だからそういう映画を観ているというわけではなく単なる偶然なのだが、どのような映画であってもやはり常に勉強する姿勢で観ていきたいと思っている。

つれづれあらぐさ

場面③ べ切当日、第7波の最中に「つれづれあらぐさ」を書き上げる

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

この原稿を書いているのが8月10日、「つれづれあらぐさ」の原稿べ切日です。普段は「あんなことがあったなあ」「こういうことを書くのかなあ」と日々の様子を思い浮かべながら内容を考えているのですが、今回は違います。いくつかあった書こうと思っていたことは、この間の新型コロナウイルスの感染拡大で飛んでしまいました。

前回のあらぐさでの感染拡大は、2021年5月末でした（その時の様子は、2021年8月号に書きました）。今回は、8月上旬の一週間であつという間に感染が広がりました。週末から週明けにかけてグループホームと通所事業所で発熱者が続出、次々に陽性が判明。「クラスターとはこういうことか」と、身をもつて知りました。

最初の陽性者が発生した時点で保健所に報告したところ、濃厚接触者の特定はなく、事業所で対応するようへの指示でした。健康観察と感染防止対策を続けてきましたが、利用者・職員ともに発熱者や陽性者が増え続けました。

発熱してもPCR検査がなかなか受けられず、40件以上の病院に問い合わせた職員もいました。受付開始時間に検査予約の電話をしてもすぐに受付終了となり、まるで「検査難民」と言わざるを得ませんでした（その状態はまだ続いています）。利用者さんについては、普段から関わりのある地域の診療所や嘱託医の先生のところでなんとか受けていただきました。

残った職員で事業継続の方法を探ってきましたが、グループホームは一部閉所から全棟閉所へ、通所事業所では通所自粛の協力をお願いして利用者の3分の1が自粛されています。陽性者が20人以上になったところで、保健所よりさらなる感染を防ぐ目的で一斉PCR検査の提起がありました。今回は複数の事業所での感染拡大ということで、前回を超える約140人の検査になる予定です。

陽性の利用者さんからご家族へ感染したり、高齢のご両親の元へ陽性の利用者さんが帰ることになったりと、本当に心苦しいことばかりです。「出来ることなら…」「なんとかできれば…」が連続する毎日、感染防止を徹底しているつもりでも自分も感染しているかもしれないという不安、この状況はいつまで続くのでしょうか。ひとまず、今の思いをべ切直前の原稿に込めました。

中山 恵美子（あらぐさ福祉会）

2+2 詩

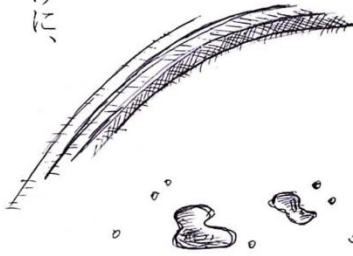
「通り雨」

暑く、暑く、蒸し暑い夏の午後。
扇風機も生ぬるい空気をかき混ぜるだけ。
ふと気づくといつの間にか陽の光が陰り、
湿気た風が吹き始めていた。

見ると一天にわかには掻き曇り、
あつという間にざあざあど騒々しい音を立てながら、
雲の柄杓からばら撒かれた大自然の打ち水が
渦巻く熱気を叩き落して流してゆく。
陽炎は水煙に呑み込まれ、乾いていた地面には
小さな水たまりが一つ二つ。
景気よく、景気よく盛大に。
しばらく続いた雨の打ち水は
始まりと同じように唐突に終わる。

ああ、また暑さが戻ってくる。

窓の外を見てため息をつく僕を興味なさげに、
うすぼんやりした虹が見降ろしていた。



「早朝」

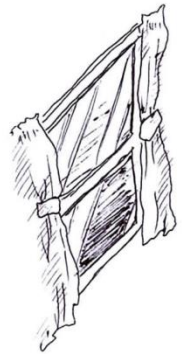
ふと目が覚めた。
見上げた時計の針は四時を少し過ぎたところ。
今や眠気は小さく目元の辺りにへばりついているだけで
寝直す気にさせるには足りない。
布団の上でうつぶせになつてぼんやりと、
窓の外を眺める。

お日様の出ていない空は薄い青に染まっていて、
そこに藍に染み込んだ綿のような雲が長々と寝そべっている。
点いたままの街の灯はなんだか柔らかく朧げで、
早起きのカラスが鳴き交わす声が遠くの方から聞こえてくる。
吹き込んでくる心地いい空気には日中の蒸し暑さは欠片もなく、
彼方の山の頂には雲と朝霧が混じったような塊が
でんと居座っている。

明るくないのに夜でないと分かる、夜明け前の一時。

目覚めがけで微睡む世界のおくびが聞こえた気がした。

作・富士一文 挿絵・水口萌恵



障害のある人の
権利を守る 北障連から
濱中博

コロナの影響で総会・学習会が実施できずは北障連の活動が、会員の皆様に見えにくくなっています。

しかし、要望活動は「継続が命」の言葉通り、丹後福祉圏域や京都北部の市町で着実に前進しています。

22年度は、北部2市2町の全ての市町に要望書を提出し、懇談をするために準備しています。

第2号議案
2021年度事業報告 その②

2、『北障連学習会』

2021年2月に「続」引きこもり支援について」の学習会を予定し、自立支援ボランティア「たんぼぼ」さんの以後の実践的な

支援の報告や、引きこもり相談窓口「ひととわ」さんの丹後地域での相談実績、取り組みの実態を共有できる学習会を検討していました。しかし、今収束の見えないコロナ感染予防の為に延期を繰り返してきました。総会に合わせた学習会の準備を進めてきましたが、今年度も総会が書面表決となり残念ながら延期せざるを得ません。引き続きコロナの状況を鑑みて学習会の開催に向け取り組みを進めていきます。

3、『財政の見直し』

この間、北障連の財政について、運動の意義や継続を踏まえ事業を行う上で繰越金の40万円を特別会計とし通帳を作り、障がいを持っている仲間の文化活動やスポーツ活動の前進の為に発表の場等のイベントや、大きな学習会に使えるようにしました。

また、役員会、事務局6役会議、要望書の作成会議や行政への提出など役員・関係者が集まり検討しやすいように交通費の支払いの検討を更に丁寧に検討します。今だ不十分ではありますが、北障連の活動の安定した前進のために

次年度より確実に支払えるよう進めます。

4、『会員拡大』

昨年度の「加悦障害児を守る親の会」「養護学校PTA」の脱退に続き今年度も「岩滝手をつなぐ親の会」からの脱退の申し入れがありました。コロナ禍で学習会など集まる機会もなくなり入会のメリット、団体内での役員の交代などで継続が困難な状況が生まれています。今後も北障連に入会していただくメリットを、会員の皆様に感じていただくだけの取り組みを検討していく必要があります。

また、団体会員だけでなく、個人会員の拡大も規約に入れています。実際には、具体化していません。北障連の活動に理解を示して頂き協力して頂けるために、個人会員の呼びかけが必要になります。

それが京都北部地域の福祉圏域や各自治体で「要望活動」を前進させる力になると考えます。

5、『京都障害児者の生活と権利を守る連絡会（京障連）』との連携と共同を進めます。

北障連は「京都障害児者の生活と権利を守る連絡会（京障連）」に加盟しています。北障連として機関誌「ひゅうまん京都」の配布や総会への参加を引き続き行います。現在北障連の歴史や取組について毎月記事の連載をしています。事務局で分担しながら、原稿作成をしていきます。



タペストリー：「生きる」装丁・絵：吉野豊 書：岡田 伸一
2014年：吉野豊 遺作展のタペストリー

365歩のマーチ



29 気遣い

先月、3年ぶりに祇園祭が開催されました。ゆいちくんは7月2

2日に3歳を迎えたので、「コロナ禍の3年間と重なり、ゆいち君は初めての祇園祭となりました。母の兄の家族が祇園祭でかき氷とビールの店を出していたので、例年お手伝いをしていました。これが結構繁盛しており、時間によってはかなり忙しくなります。このお手伝い、何が楽しいかと言うと、「接客」を通していろんな人と話ができること。地域の人が毎年来てくれるので、一年に一度の再会、それぞれの変化を感じられることが個人的には醍醐味だと感じています。小学生、中学生がらずっと来ている子も高校、大学生になって成長した姿を見せに

来てくれます。小さかった子どもも小学生になったり…。時間の流れを感じます。

金曜日の昼から父は仕事の休みをとり、ゆいちくんもお昼で保育園を早退。親の思いでなにやらよくわからない服(甚平)を着せられ、現地に向かいます。電車で四条に着くと、今まで経験したことのない人の多さ、露店の準備の雰囲気、ただよつにぎわいに緊張気味のゆいちくん。

日が沈んでくると徐々にお客さんが増えてきます。ゆいちくん



は、忙しそうにする父・母、親族を尻目に、いとこと一緒にかき氷をほおばったり、隣接している公園に遊びに行ったり、お客さんに話しかけてもらったり…まつりの雰囲気を楽しんでいました。夜も遅く、連日お店のお手伝いが続いたために、いとこのマンションに泊まらせてもらうことにしました。ゆいちくんはずっと、「なんでおうち変わったん？」と楽しくも不思議そうにしていました。どこか遠くに旅行に行くのもいいですが、どこに行ってもゆいちくんにとっては非日常、近場なのに旅行気分を楽しめてよかったです。

※

最近、いやいもすこいのですが、少し相手の気持ちを考えてくれているようなことが多くなってきました。休みの日に母親と二人で車でおでかけしていた時のこと。高速道路の降り口を間違えたと思った母親が「あーまちがえたー!」と叫ぶと、後部のチャイルドシートに乗っていたゆいちくんが「かあか、がんばって運転してくれてるからいいよ」と一言。人のミスを責めるのではなく、それでもがんばっている母親をねぎらうなんて…。母親は感動したことは言うまでもありません。

お風呂と一緒に入ると、蛇口をひねってシューズづくりをしたいゆいちくん。いつもシャワーを使う父とひと悶着です。ある日のお風呂。ゆいちくんより先にシャワーを使っていると、いつも聞こえてくる「ゆいちくんシューズつくりたいの!」が聞こえてきません。しばらくの間があった後、「とおと、ごめんな」と言っておもむろにシャワーから蛇口に切り替えて遊びだしてしまいました。そんな気を遣えるなんて…。お風呂に入りながら、これまた感動していた父なのでした。

安藤史郎(あかひつねの園)

知っ得情報

聴覚障害者等と電話会話できるサービス

代表委員 松本 美津男

聴覚や発話に困難のある人（以下、きこえない人等）と、きこえる人（聴覚障害者等以外の人）との会話を通訳オペレータが「手話」または「文字」と「音声」を通訳することにより、電話で即時双方向につながる事ができる「電話リレーサービス」が昨年から利用できるようになりました。

このサービスは24時間・365日、双方向での利用、緊急通報機関への連絡も可能です。

きこえない人等は登録が必要ですが、きこえる人は登録しなくても、きこえない人等が登録したIP電話（050番号）へかけるだけで利用できます。その際のIP電話（050番号）への通話料は概ね一般電話へかける料金に近いです。詳細は契約している電話会社（固定電話、携帯電話）へ問い合わせして下さい。

サービス利用で交流を深めましょう。
（問い合わせ先）

一般財団法人日本財団電話リレーサービス

電話番号／03-6275-0912

FAX番号／03-6275-0913

メール／info@nftns.or.jp



あなたもぜひ 仲間に

サロン・サークル・地域活動展開中
生活支援スタッフ（資格不要）募集中
介護職員（資格要）募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります（随時）



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5
電話075-432-3636

命の平等をかけた、 無差別平等の医療と 福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: info@kyoto-min-iren.org

ありがとうございます

年会費 百上真奈・恵島千恵子・高向美智子・角井俊之

分担金 自由法曹団京都支部

(敬称略 2022.8.10)

「気楽にお話ししましょう会」第1回を7月20日に開催しました。

場所は京都市障害者スポーツセンターという障害のある子どもから大人まで幅広く利用できる施設(無料)を借りました。参加者は知り合いに呼びかけ13名集まりました。「久しぶりです」と支援学校卒業からしばらくぶりの方、同じ施設に子どもが通っている家族など、子どもの年齢は10代から30代でした。

自己紹介のあと、どんなことに不安があるか、話したいことを出し合いました。

- ・両親が年を重ねて、先のことが心配。
- ・将来、これから先をどうしたらよいかリアルに考えている。暮らしの場を考える会に賛同する、一緒に考えてみたい。
- ・先輩方をみていて家族だけでは、と思う。生活の場を広げたい。話をしたい。
- ・男一人で育てている。きょうだいもいるがどこまでどうしてやったらよいのか。どう育てていけばよいのか。親が衰えたとき、どうしたらよいのか。行政・市にどういえばよいのか一緒に考えていきたい。
- ・きょうだい月1回来てくれて一緒に過ごしている。うれしいけど、しんどい。嫁さんに障害のこと知ってもらいたいが、どう伝えたらよいか。将来的に施設に入ることになるのだろうか。一緒に話したい。
- ・グループホーム、財産管理など心配がある。先輩の話を知りたい。
- ・「入所施設を探さないといけない」と聞いたり、遺産相続のことも気になる。
- ・先のこと後見人、親亡き後のことなど「怖いワード」を聞いて焦っている。
- ・きょうだいがいるが高校受験反抗期。どこから手を付けたらよいか先輩の話を知りたい。
- ・働きながら育ててきて母とのつながりを作ることができずに来た。不安しかない。
- ・一人暮らしができるだろうかと考えている。
- ・具体的な経済的なことは聞き辛い、聞けない。年金の話など。20歳だから手続きを一生懸命しているところ。先輩がどう暮らしているのか知りたい。
- ・後見人のことなど、知らせてくれることがないこと自体が問題ではないか。京都市がマニュアルを作ってくれたらよいのだが。法律的に強い人に来てもらい話を聞きたい。
- ・下にきょうだいがいて、ヘルパー入浴に来てもらっていたが、知らない人(ヘルパー)がいることが思春期で嫌だったよう。一人暮らし、GH(グループホーム)の話を知りたい。一人暮らしされている方が、ヘルパーの確保が難しいと聞いている。
- ・重度の子どもが入るグループホームができないか、看護師が必要な人の行けるGHがあればと思う。

一人ずつ話すことができあつという間に1時間半が過ぎました。就労のため、中座された方や土日希望されている方、参加を熱望されたが、欠席の方もあり、このような機会を継続していくことを確認し終了しました。

沖田 友子(京障連代表委員)